

「高齢者の運転免許証の返納に関する実態と意識」 調査結果概要

1. 事前調査

今回は、2019年8月16日～21日に実施した予備調査において、運転免許証を自主返納した、またはあえて更新しなかった、各年代の男女計1,000人を抽出し、2019年8月23日～26日の間にインターネットによる調査を行った。(本調査では、あえて運転免許を更新しないことで運転の継続を自主的にやめたという行為も返納のあり方の一つとして考える。)

2. 回答者属性

対象者1,000人(男性615人、女性385人)の主な属性は以下のとおりである。

(1) 年齢(人)

年代	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上
人数	14	125	342	291	228

(最若年60歳、最高齢93歳、平均75.1歳)

(2) 居住地域

44都道府県(高知県、鳥取県、岩手県の3県が回答者なし)

(3) 職業

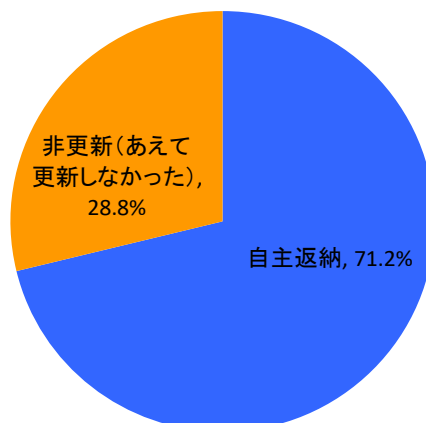
無職(62.1%)、専業主婦・主夫(23.6%)、パート・アルバイト(5.4%)、自営業・自由業(4.3%)、会社員(1.2%)等

3. 主な調査結果について

(1) 運転免許証を自主返納した回答者(自主返納)と、あえて更新しなかった回答者(非更新)の割合

図表1にあるように、運転免許証を自主返納した回答者が71.2%、あえて更新しなかった回答者が28.8%となっている。

図表1: 自主返納と非更新の回答者の割合

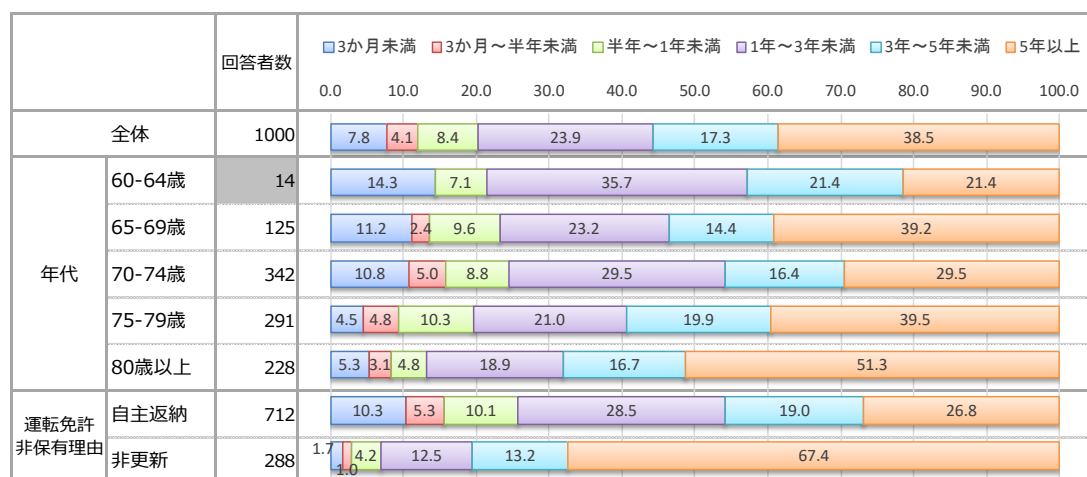


(2) 運転免許証を保有しなくなってからの期間

自主返納の場合は「1年～3年未満」の回答者が28.5%と最も多く、非更新の場合は「5年以上」の回答者が67.4%となっている。自主返納の場合と非更新の場合では大きく値が異なる結果となった。(図表2)

運転免許証の自主返納の件数は、自主返納者に発行される運転経歴証明書が無期限で本人確認書類として使えるようになった2012年以降から急増している。非更新の場合はそれよりも前の時期にペーパードライバーが更新をしなくなったことが考えられる。

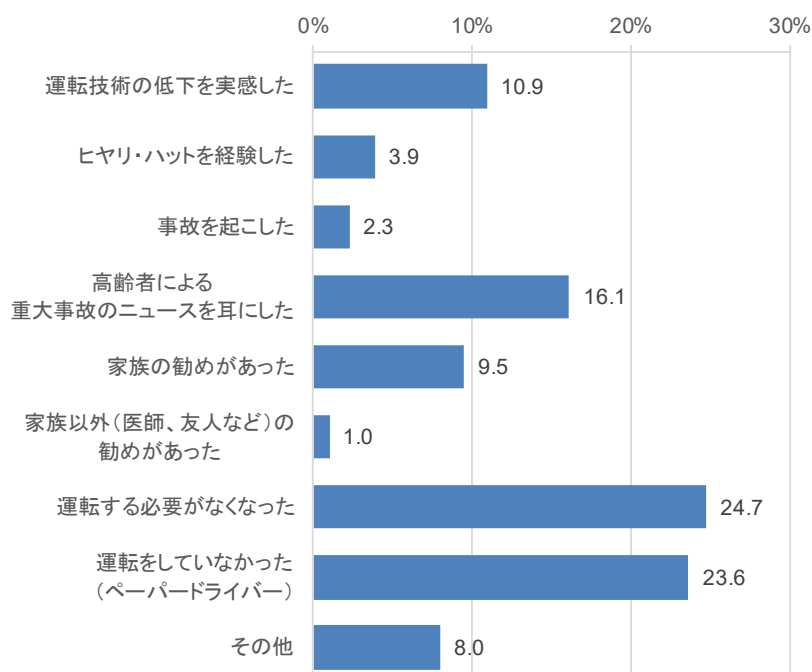
図表 2:運転免許証を保有しなくなってからの期間



(3) 運転免許証を保有しなくなった理由として最もあてはまるもの

全体の回答数の割合では「運転をする必要がなくなった」と「運転をしていなかった（ペーパードライバー）」が高い。(図表3)しかし、この設問の回答数の割合は、年齢および自主返納・非更新の属性によって違いがみられる。

図表 3:運転免許証を保有しなくなった理由



図表 4:運転免許証を保有しなくなった理由(年代別、自主返納・非更新)

単位: %

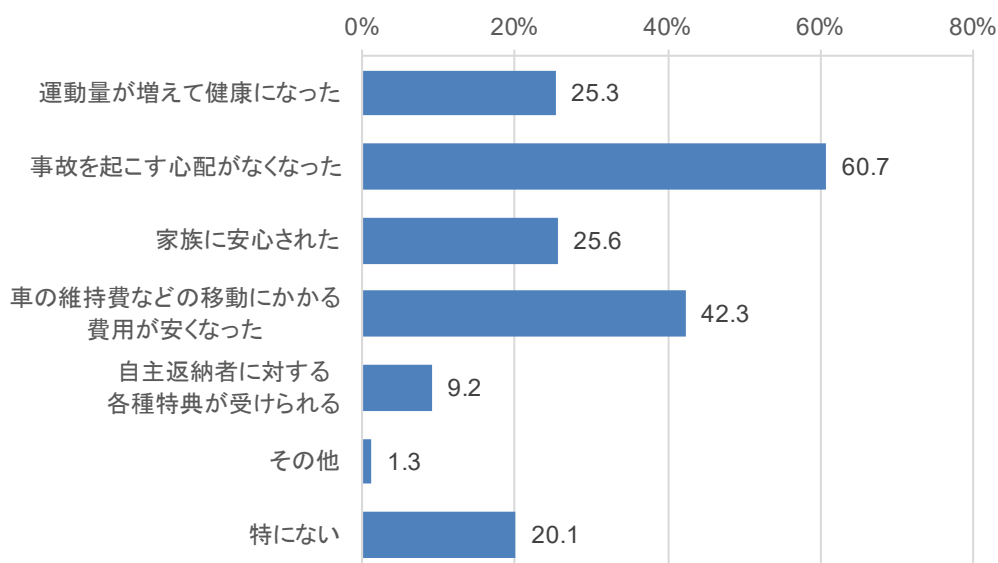
	60-64 歳	65-69 歳	70-74 歳	75-79 歳	80 歳以上	自主返納	非更新
運転技術の低下を実感した	7.1	2.4	9.4	13.7	14.5	10.5	11.8
ヒヤリ・ハットを経験した	0.0	4.0	4.4	2.4	5.3	3.9	3.8
事故を起こした	0.0	4.0	2.0	1.7	2.6	1.8	3.5
高齢者による重大事故のニュースを耳にした	7.1	9.6	11.4	21.6	20.2	21.2	3.5
家族の勧めがあった	0.0	3.2	2.9	10.7	21.9	9.6	9.4
家族以外(医師、友人など)の勧めがあった	0.0	0.0	0.9	0.7	2.2	1.3	0.3
運転する必要がなくなった	0.0	26.4	31.0	21.0	20.6	25.1	23.6
運転をしていなかった(ペーパードライバー)	78.6	38.4	31.0	19.6	6.1	19.2	34.4
その他	7.1	12.0	7.0	8.6	6.6	7.3	9.7

図表 4 にあるように、「運転技術の低下を実感した」、「高齢者による重大事故のニュースを耳にした」および「家族の勧めがあった」については、高齢になるにつれて割合が高くなっている。また、非更新の回答者の 34.4% はそもそも「運転をしていなかった (ペーパードライバー)」と回答している。

(4) 運転免許証を保有しなくなって良かったと感じたこと (複数回答)

運転免許証を保有しなくなったことで生まれたメリットについては、主に「事故を起こす心配がなくなった」と「車の維持費などの移動にかかる費用が安くなった」ことが挙げられている。また、4 人に 1 人 (25.3%) が「運動量が増えて健康になった」と回答している点は注目すべきである。運転免許証を保有しなくなることは心理的、経済的効果に加えて健康面でのメリットもあるという結果となっている。(図表 5)

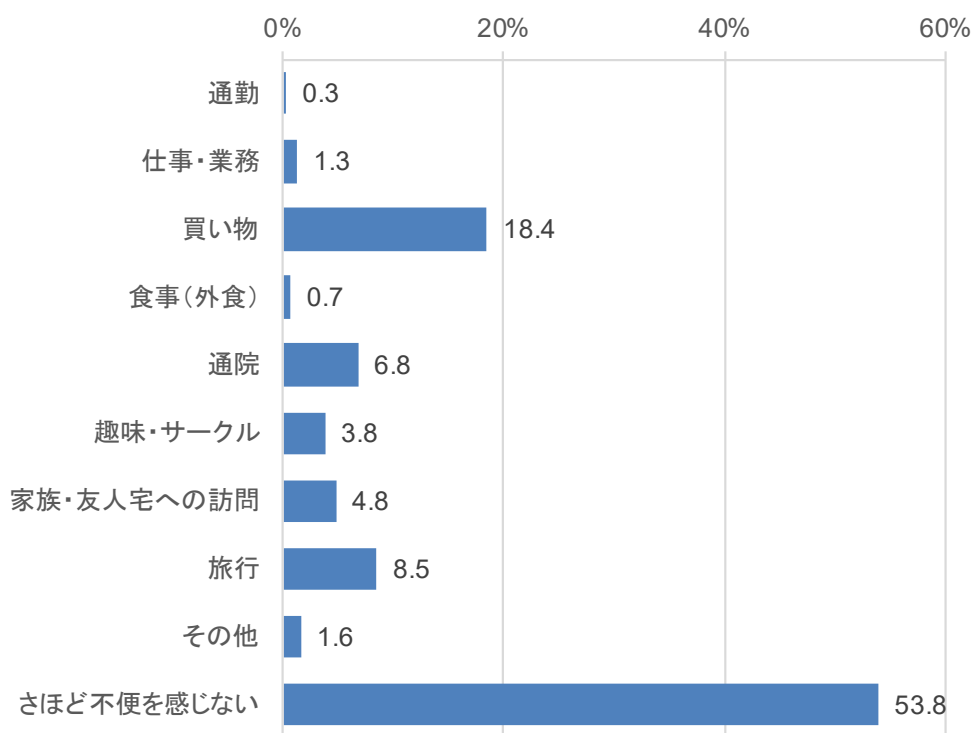
図表 5: 運転免許証を保有しなくなったことのメリット



(5) 運転免許証を保有しなくなって最も不便を感じたこと

運転免許証を保有しなくなったことのデメリットとしては、「買い物」についての不便が挙げられたものの、53.8%の回答者が「さほど不便を感じない」と回答している。(図表 6)

図表 6: 運転免許証を保有しなくなって不便になったこと



(6) 安全運転支援機能を有する自動車を前提として高齢者が運転できる運転免許制度

政府が成長戦略の中に謳っている高齢者ドライバー向けの同制度について、回答者に対し、「そのような制度があれば、現在でも運転免許証を保有していたかどうか」を訊いた結果が図表 7 である。72.5%の回答者が、「保有していないと思う」と回答している。

回答者はすでに自らの意思で運転免許証を保有しなくなっていること、またその多くがメリットを感じており、不便を感じていないということを考慮すればこの結果は妥当といえる。

図表 7: 安全運転支援機能付き自動車限定運転免許証の取得意向

